

神への奉仕のため、この世界でともに歩む

カンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師のお招きにより、カンタベリーで1月11日 (月) から15日 (金) まで、世界聖公会 (アングリカン・コミュニオン)38管区の首座主教による会議が開かれ、米国聖公会総裁主教も参加されました。初日の午前は、祈りと断食に充てられました。

私たちは、2016年の首座主教会議では、人間の性の問題に関する教えをめぐる、私たちの間の意見の相違について話し合われることになるものと考えてきました。また、より幅広い関心事に対応したいという強い希望もありました。

会議は、議題に関する合意から始まりました。合意された最初の議題は、全世界のアングリカン・コミュニオンで論争的となっている重要事項、すなわち米国聖公会による最近の結婚の教義の変更でした。

この週を通じ首座主教が全会一致で決定したのは、ともに歩むということです。それがいかに苦しくとも、互いの相違を超えてそうするのです。そうすることで、キリストのからだにおける私たちの一致を真摯に表現するためです。私たちは、それが、実際の場ではどのような意味を持つのかについて考えました。

会員による作業部会が、私たちアングリカン・コミュニオンの諸教会がともに歩み、一致を強めていくにはどうすべきかという問題に取り組み、勧告をまとめてくれました。その勧告は、過去の首座主教会議における声明に沿い、結婚の教義を最近変更した米国聖公会には、アングリカン・コミュニオンとの関連においてどのような影響があるのかを論じていました。下記添付文書Aの第7章および8章の勧告は、次のようになっています：

「ともに歩むことが、我々の総意として強く望むところである。しかしながら、この問題の重大さに鑑み、我々は正式にこの隔たりの存在を認める。それに伴い、米国聖公会が今後3年間、エキュメニカルおよび異宗教間の組織において我々を代表せず、聖公会内部の常任委員会に委員を指名または選出せず、さらにアングリカン・コミュニオン内部の組織に加盟している場合でも、教義や政治に関するいかなる問題の意思決定にも参加しないことを要求する。」

「我々はカンタベリー大主教に対し、関係回復、相互の信頼関係の再構築、遺恨という苦痛の癒し、相互の共通性度合いの認識と深い相違の検討を意図し、相互の対話維持のためのタスクグループ設置を依頼した。キリストの愛と恩寵において、タスクグループは必ず双方の間に置かれる。」

これらの勧告は、出席していた首座主教の過半数の支持によって採択されました。

私たちはこの内容をさらに発展させ、教義や政治に関し私たちの一致を脅かすような一方的な決定が行われた場合にも適用可能なものとする予定です。

首座主教たちは、同性愛嫌悪による偏見や暴力を強く非難し、性的指向に関わりなく心のケアと愛ある奉仕を提供すべく、ともに取り組むことを固く決意しました。この信念は、イエス・キリストの弟子であるという意識から生まれたものです。首座主教たちは、同性に魅力を感じる人々への刑事制裁を拒否する旨を再確認しました。

首座主教たちは、キリスト教会およびその一部であるアングリカン・コミュニオンが、人々に対し、彼らの性的指向に基づき心に深い傷を負わせるような行動をしばしば取ってきたということを認識しています。そのような事例について、首座主教たちは深い遺憾の意を示すとともに、神の愛がどの人間にも性的関心の如何に関わらず等しく注がれていること、また教会はそれとは異なる印象を自らの行為によって決して与えないことを改めて確認しました。

私たちは会議の準備で行われたウェルビー大主教による協議の内容を確認し、コミュニオンにおける将来の出来事にもこの大主教の採られた手法が採用されるよう推奨しました。

必要とされる米国聖公会の会員資格申請は、聖公会諮問評議会における検討が適切であると認識されました。首座主教たちは、そのような申請が提出されることがあれば、政治および権限上の重大な問題が提起されるものと考えています。

先月パリで開催された気候変動会議を受け、首座主教会議は、聖公会環境ネットワーク（**Anglican Environment Network**）が調整役を担い約200万の署名を集めた請願書についての話を聞きました。化石燃料からの脱却の動き、アフリカ大陸の砂漠化進行、海面上昇により各所で人々の生活が脅かされる太平洋の島々における生存競争についての報告がなされました。

会議ではまた、宗教的動機による暴力が発生している現状や、それが世界各国の人々やコミュニティに与える影響について話し合われました。そのような暴力が日常化している地域の首座主教たちは、同じ地域に住む会員たちが受ける影響や置かれている現状について熱を込めて強く語りかけました。カンタベリー大主教ご自身も、自ら率先して全世界の様々な信仰共同体の人々の団結を呼びかけ、対話と相互説明責任を推進する重要な取り組みに携わっていらっしゃいます。聖公会首座主教は、宗教的動機によるいかなる暴力も断固として否定し、今日の世界におけるこの悪に苦しむすべての人々との連帯を表明しました。

首座主教達は、アングリカン・コミュニオンすべての教会が利用できる包括的な児童保護措置の提案が、聖公会諮問評議会に提出されるのを待ち望んでいます。

福音主義の提示において、首座主教たちは、神の愛というイエス・キリストにおけるすべてを変革する力の証人となるためにイエス・キリスト教会が存在することに歓喜しました。首座主教たちは、福音伝道の経験を共有することで活力を得て、それぞれの管区の人々に福音を説く意欲を新たにしました。

「首座主教たちは、福音の美と喜びの信奉を広く呼びかけ、世界中に向けてイエス・キリストという人物とその働きを絶え間なく真正に称えることに、喜んでその身と聖公会とを捧げる。」

（添付資料B参照）

首座主教たちは、2020年にランベス会議を招集するというカンタベリー大主教の提案を支持しました。

首座主教たちは、部族主義、民族性、国家主義、パトロネージ・ネットワーク、そして腐敗という大きな悪について議論しました。これらの問題が、戦争や暴力とより密接に結びつくようになり、また貧困から派生していると考察しました。そして、アングリカン・コミュニオンの事務総長に対し、次回の首座主教会議に関する調査の委託を依頼することで合意しました。首座主教たちは、2017年と2019年に再度会議を開くことで合意しました。

首座主教たちは、アングリカン・コミュニオン・オフィスのスタッフ、特に事務総長、およびランベス・パレスならびにチャーチ・ハウス、ウエストミンスタースタッフに大変感謝しています。特に、カンタベリー主任司祭を始めとする大聖堂の皆様の温かい歓迎や寛大なおもてなし、ご親切をありがたく思っています。会議の雰囲気を作りと相互の傾聴に馴染ませる上で、彼らの貢献は極めて重要でした。祈りを捧げ支援を提供して下さった聖アンセルムコミュニティ（**Community of St Anselm**）の方々、感動的なスピーチをして下さったJean Vanier氏、そして聖オーガスティンの福音書と並んで座れるよう牧杖の先端部を貸して下さった聖グレゴリーコミュニティ（**Community of St Gregory**）の方々、ありがとうございます。

首座主教たちは、ともに過ごす時間を神からの贈り物として受け取り、私たちの間に神が存在するというしるしを幾つも経験しました。また、カンタベリー大主教が、特に会議の議長として直接示されたご配慮とお慎みに感謝しました。私たちは、親しい交流に充実感を感じ、また誠実な証人たる世界各国の聖公会会員たちに勇気づけられ、ともに過ごす一週間を終えました。このともに過ごした時間に世界中で多くの人々が祈りを捧げて下さったことに、首座主教たちは深く感謝します。

添付資料 A

1. 我々世界聖公会首座主教は、結婚の理解に関して我々の間に存続している深い相違に鑑み、キリストにおける我々の一致をいかにして維持するべきかを考慮し、祈りを捧げるために集まった。
2. 米国聖公会の教会法における結婚に関する最近の動きは、我々の管区の大多数で結婚の教義として信仰され、教えられている事柄からの根本的な逸脱を示すものである。その他管区にて予想される動きは、更にこの状況を悪化させかねない。
3. 我々は皆、こうした動きがアングリカン・コミュニオン全体に一層深い苦痛をもたらしたことを認める。
4. 聖書の教えに鑑みた教会の伝統的教義は、結婚を、男性と女性との間の生涯にわたる誠実な結びつきとして支持している。集まった者の過半数がこの教えを再確認している。
5. 過去の首座主教会議の一貫した見解に従い、教義の問題に関するカトリックとの一致を欠くそのような一方的な行動は、アングリカン・コミュニオンにおいて相互に交流を維持することで示唆される相互説明責任および相互依存からの逸脱であると、我々の多くがみなすものである。
6. そのような行動は、我々の親交を更に損ない、我々の間に深い不信感を生むものである。その結果、我々の間に重大な隔たりが生まれ、コミュニオン法規 (Instruments of Communion) の機能や、我々の歴史的および現行の関係の表現方法に大きな負担が課されることとなる。
7. ともに歩むことが、我々の総意として強く望むところである。しかしながら、この問題の重大さに鑑み、我々は正式にこの隔たりの存在を認める。それに伴い、米国聖公会が今後3年間、エキュメニカルおよび異宗教間の組織において我々を代表せず、聖公会内部の常任委員会に委員を指名または選出せず、さらにアングリカン・コミュニオン内部の組織に加盟している場合でも、教義や政治に関するあらゆる問題の意思決定に参加しないことを要求する。
8. 我々はカンタベリー大主教に対し、関係回復、相互の信頼関係の再構築、遺恨という苦痛の癒し、相互の共通性度合いの認識と深い相違の検討を意図し、相互の対話維持のためのタスクグループ設置を依頼した。キリストの愛と恩寵において、このタスクグループは必ず双方の間に置かれる。

添付資料 B

我々世界聖公会首座主教は、イエス・キリスト教会が、全世界で聖霊の力においてすべてを変革する神の愛の証人となるべく存在することを、ともに確認する。

神の世界がこの愛の復活を今ほど必要としたことがかつてなかったことは明白であり、我々はそのことを知らしめたいと切に願う。

我々は、福音伝道を通じ、福音の美と喜びの信奉を広く呼びかけながら、イエス・キリストという人物とその働きを絶え間なく真正に称えることにこの身を捧げる。

我々に語る言葉を与え、新たな生命の誕生をもたらし、イエス・キリストの内に明らかにされた真実に我々を導き教会を建てた聖霊の力に、我々は完全に依存する。

イエス・キリストの弟子はすべて、洗礼によって、信仰、希望、そして愛においてイエスの証人となる。

我々はともに、世界がイエス・キリストこそ神であると知るよう、祈り、聴き、愛し、苦しみ、犠牲を払うことを固く誓う。

聖霊よ来たれ。